

都万小学校 目指す児童の姿 系統表〔学活（１）〕

表：具体的な子どもの姿 裏：手立て

目指す児童の姿		低学年	中学年	高学年
主体的に課題に取り組む児童	学ぶことに興味や関心を持って取り組む子	・身近なことについて話し合うことに、興味を持つ。 ・学級をよりよく楽しくするための提案を、提案カードに書く。 ・学級のもんなで決めたことを、仲良く助け合って活動する。	・学級の生活上の諸問題に気付く。 ・学級をよりよく楽しくするための提案を、提案カードに書いたり、発信したりする。 ・学級のもんなで決めたことを、協力し合って実践する。	・学級や学校生活の充実と向上に関わる諸問題に気付く。 ・学級や学校生活をよりよくするための提案を、提案カードに書いたり、発信したりする。 ・話し合って決めたことに対して、自分の役割が分かり、責任を果たそうと友達と協働して実践する。
	見通しを持って、粘り強く取り組む子	【司会グループ】※教師主導で ・進行表をもとに、話し合いの流れを確認し練習する。 ・話し合うことや決まっていることを知らせる。 【話し合いグループ】 ・自分の考えを、学級会カードに書く。	【司会グループ】※教師も一緒に ・提案カードの挙がってきた意見から、議題選定のポイントで比べながら全体で話し合うべき議題を決定する。→年に2回、全体で議題決定。 ・話し合い活動の計画カード（議題・提案理由・めあて・話し合うこと・役割分担）を書く。 ・話し合うことや決まっていることを知らせる。 【話し合いグループ】 ・提案理由や決まっていることをもとに、学級会カードを書き、課題に対して自分の考えを持つ。	【司会グループ】※教師助言のもと ・提案カードの挙がってきた意見から、議題選定のポイントで比べながら全体で話し合うべき議題を決定する。→年に2回、全体で議題決定。 ・話し合い活動の計画カード（議題・提案理由・めあて・話し合うこと・役割分担）を書く。 ・話し合うことや決まっていることを知らせる。 【話し合いグループ】 ・提案理由や決まっていることをもとに、学級会カードを書き、課題に対して自分の考えを持つ。
	課題解決のために、様々な方法を考える子			
	次につなげたり、実生活と結びつけたりする子	・話し合いで決まったことを実践するよさを体感する。 ・事前～実践を振り返り、次の活動へ生かす。	・話し合いで決まったことを実践するよさを体感する。 ・事前～実践を振り返り、次の活動へ生かす。	・話し合いで決まったことを実践するよさを体感する。 ・事前～実践を振り返り、次の活動へ生かす。
伝え合い高め合う児童	相手に分かりやすく伝える子	・自分の考えを持つ。 ・自分の考えを、理由をつけて話す。	・提案理由に沿った自分の考えを持つ。 ・自分の考えが伝わるように、理由や具体例を挙げながら話す。	・提案理由に沿った自分の考えを持つ。 ・自分の考えが友達に明確に伝わるように、理由や具体例を挙げながら表現を工夫して話す。
	相手の考えを分かろうとして聞ける子	・友達の考えに反応（うなずき・「分かりました」等）しながら聞く。 ・友達の考えを最後まで聞く。	・友達の考えに反応（うなずき・「分かりました」等）しながら聞く。 ・自分と異なる意見を受け入れながら聞く。 ・自分の考えと友達の考えの相違点や共通点を理解しながら聞く。	・友達の考えに反応（うなずき・「分かりました」等）しながら聞く。 ・相手の立場や考え方を理解しながら聞く。 ・友達の考えのよいところや、生かせるところについて考えながら聞く。
	自分の考えと比べ、自分の考えを確かなものにする子	・自分の立場をはっきりさせて、話し合いに参加する。 ・司会（１年生は教師・児童）の進行の流れに沿って、合意形成を図る。	・お互いの考えの相違点や共通点が分かり、提案理由に戻って考えを見直す。 ・提案理由をもとに、自分もよくみんなもよいものとなるよう、理由を比べながら合意形成を図る。	・友達の考えのよいところを見つけ、組み合わせたり、新たな考えを生み出したりする。 ・多様な考えのよさを生かして、創意工夫（合体案・代案・新たな案など）しながら合意形成を図る。
	よりよい解決策を考えている子	【司会グループ】 ・進行表をもとに、教師の助言を受けながら進行する。	【司会グループ】 ・提案理由や話し合うことを、全体に確認しながら進行する。	【司会グループ】 ・多様な考えのよさを生かしながら、よりよい合意形成が図れるように進行する。

【事前指導】	
1. 問題の発見	☐ 提案カードを書く時間を設ける。 ☐ 議題の提案につながる児童のつぶやきを見つけ、助言することで、問題を発見する視点を伝える。 （例：朝終礼で話題になったものから、係活動や当番活動の感想から、児童会から依頼されたこと・学級から児童会に提案したいことからこれまでの活動の振り返りから）
2. 議題の選定	☐ 議題選定のポイントをもとに、学級会で取り上げる議題を選定する。 ◎議題選定のポイント（3年生以上） ①今までの活動や学級（学校）のことをもとにしている提案か ②学級（学校）のみんなのことを考えた提案か ③今すぐ話し合う必要がある提案か ④新しさが感じられる提案か ⑤その他 ☐ 司会グループは、選ばれなかった議題の取り扱いについて提案者に伝える。
3. 活動計画の作成	☐ 司会グループと教師が話し合いながら計画カードを作成する。 （提案理由、話し合いの役割分担、決まっていること、話し合うこと、話し合いのめあてを明確にする。） ☐ 提案理由は、提案者の思いを大切にしながら「何のために活動するのか」「どのように活動するのか」など具体的な内容にする。 ☐ 話し合うことは、学級会1時間かけて話し合う価値のものになっているか確認する。 ☐ 司会（全体の進行）と副司会（タイムキーパー・発言した人の把握・司会の相談役）の役割を確認する。
4. 問題の意識化	☐ 学級会カードに自分の考えを書かせ、自信を持って話し合いに臨めるようにする。 ☐ 学級会カードは、教師が事前に目を通し、提案理由から大きく反れているものは、個別に思いを聞き考えを整理させる。 ☐ 学級活動コーナーを設け、提案理由や話し合うこと、決まっていることなどを掲示することで、児童の意識を高める。
【学級会（話し合い）】	
1. 提案理由、めあての確認や決まっていることの提示	☐ 「決まっていること」を明確にする。（例：お楽しみ会だったら、場所・日時・遊びの数など）
2. 思考の可視化・操作化・構造化	☐ 短冊を利用し、出た意見を分類・整理して比べやすくする。 ☐ 賛成・反対マークに色をつけ、話し合いの過程が分かるようにする。 ☐ 「出し合う→比べ合う→まとめる」の話し合いの流れが分かるように示し、見通しを持って時間内に決めることができるようにする。 ☐ 目安の時間を示し、時間を意識して話し合うことができるようにする。
3. 教師の指導助言	☐ 人権上問題のある言動があった時、自治的な範囲をこえている時はその場で指導する。話し合いが停滞している時や意見が多数出て整理できない時軌道修正が必要な時も、場合によっては助言するようにする。 ☐ 話し合いでの合意形成を図るために、折り合いの付け方を発達段階や児童の実態に応じて指導・助言する。 （例：
4. 終末の「先生の話」	☐ 児童を評価する視点をもとに話し合いのよかったところや課題、司会グループへのねぎらいなどを伝え、実践への意欲を高める。
【事後指導】	
1. 実践の準備	☐ 進んで活動している係を称賛するとともに、活動が滞っている係や児童には、仕事の内容を明確にするなど個別の声かけをする。
2. 実践	☐ 提案理由に立ち返り、めあてを持って活動できるように助言する。 ☐ 個人や集団の頑張りを称賛し、自信を持って活動できるように支援する。
3. 振り返り	☐ 振り返りカードを活用し、視点に沿った振り返りをする。 ☐ 全体の成果や課題は、視覚的に分かるように掲示し、次の活動に生かせるようにする ☐ 学級通信や学級掲示を通して、家庭にも活動の様子や成果が伝わるようにする。
（参考資料） ・「みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）」 H30.7月 ・「小学校学習指導要領解説（特別活動編）」 H29.7月	

